

# 壊してほしくない

## ～辺野古の自然と住民の生活～

「辺野古移設に、賛成ですか？反対ですか？」という質問に対し、普天間中学校【賛成11%】【反対89%】、長野県内2校【賛成12%】【反対44%】【どちらでもよい44%】【どちらも反対が圧倒的に多い結果となりました。しかし同じ反対という意見でも理由が異なっていました。

### 同じ思いを してほしくない

「辺野古に移設して何がわるんですか？そこの人たちがまた騒音で困るだけでしょう」

「私たちの住んでいる普天間からなくなるのは嬉しいことですが、辺野古の人たちが今私たちの困っていることで困るのは嫌な気持ちがあります。沖縄県内にあるのは変わらないし、自然を壊して辺野古の人が嫌な思いをするくらいならそのままがいいと思います」

現在、騒音やいつ事故に巻き込まれるかわからない不安を抱えながら生活している普天間中学校のアンケートからは、

「このままでよい」とつまり移設反対と回答した人が35人中31人いました。逆に「自分たちが住んでいる所があると騒音や事故の危険性がある」だから移設賛成と回答した人は35人中4人でした。

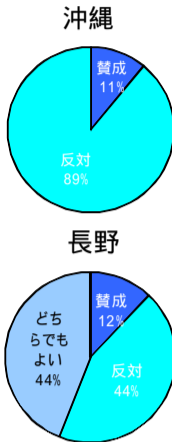
騒音や事故への不安から、ほとんどの生徒は自分たちの地域から基地がなくなることを願っています。しかし、それ以上に辺野古の人に同じ思いをしてほしくないと思っ

### どちらが良いのか 分からない

長野県内2校のアンケートでは、「海や自然が壊され、ジュゴンやサンゴ礁などが住めなくなる」という環境の面から

移設反対と回答した人が41人中18人いました。また、「巨額な費用をかけて移設しても移設先で新たな問題が起きたら移設する意味が無い」という経済の面から反対という回答もありました。

辺野古移設に賛成？反対？



「授業中、戦闘機の騒音は気になりますか？」という質問に対し【非常に気になる14%】【気になる49%】【特に気にならない37%】という結果になりました。しかし、どちらの回答にも「慣れた」という声が多くありました。

「授業の時、先生の話があまり聞こえなくなるし、テレビの音が聞こえないので嫌です」

「授業中、先生が説明する時に、聞こえなくなったり、テスト中等気が散ってしまっ」

普天間中の生徒はアンケートに

## 騒音は生活の一部

「非常に気になる」「気になる」と答えた人が35人中22人いました。しかし、「気になる」と答えた人の中には「気になるかと聞かれると、もう慣れているのである」と思わないが気になる。授業中に騒音がなると一時中断しないといけないので困る」

「たまにうるさいなと思うけど、それが当たり前みたいな感じだからあまり気にならない」

「もう慣れた」「当たり前になっ」と言う回答がほとんどでした。

騒音は普天間基地周辺に住む人たちの生活の一部となっています。今はもう慣れたと言っている人も気になってい

# 返還後も続く重荷

## なぜ沖縄は怒っているのか

沖縄県土の1割を占める米軍基地。基地を作ることで沖縄の自然は汚され、ヘリや戦闘機などは近隣の住民が慣れてしまうほど騒音を響かせ、墜落などの事故がたくさん起きています。



プラカードを掲げ、普天間飛行場の辺野古移設を明記した、日米共同声明に講義する集会参加者。5月28日名護市役所中庭 (写真提供 沖縄タイムス)

### そもそも基地とは

沖縄県には、県土面積の1割を占める、米軍基地があります。沖縄県の面積は長野県の2割ほどの面積です。その中で米軍基地は長野市の3分の1に相当します。

米軍基地は、沖縄戦が終わった後にできまし

た。沖縄戦で生き延びていた人々が、1年ほど収容所に入れられた後、やっとの思いで家に帰ろうとしました。しかし、そこは立ち入

### 昼夜響き渡る騒音

基地は住宅地のすぐそばにあるので、騒音被害も深刻になっています。嘉手納基地の周りには防音壁がありますがそれでも毎日70〜110デジ

ベルほどの騒音が、住宅地に響いています。これは、自動車のクラクションや、電車が通過する時の音に相当します。会話をしたり、テレビを見たり、睡眠をとったりといった日常生活が妨害され

ます。宜野湾市にある普天間基地では、住宅地と隣り合っていますが、フェンスがあるだけです。近隣の学校では、騒音で授業が中断になることが度々あります。

この、嘉手納基地・普天間基地の2つの基地周辺での、米軍機の飛行に

り禁止になり、米軍の基地ができていたのです。沖縄が本土に復帰した後米基地はそのままです。

よる騒音を軽減するために、1996年、航空機騒音規制措置が結ばれました。この措置では、午後10時から午前6時、日曜日、慰霊の日等の飛行は制限されています。しかし、米軍機は深夜も早朝も飛んでいて、協定が守られているとは言い難い状況です。

今年5月の日米両政府の共同声明では、普天間基地の移設先が名護市辺野古となっていますが辺野古の海には希少な自然が広がっています。

豊かな海を支えているサンゴ礁がなくなると、水産物が獲れなくなり、漁師は収入が減ります。また、観光客も減ってしまいます。

そして、辺野古の海には絶滅危惧種のジュゴンも住んでいます。ジュゴンは現在日本には沖縄付近にしかいない、しかもたったの10〜50頭しか生息していません。ジュゴンはアマモなどの海藻を食べています。基地を作ってしまったら海藻が少なくなり、住んでいた地域で海藻が少なくなると、その地域ではすぐ絶滅してしまいます。ジュゴンは音にも敏感なのでヘリなどの騒音に

もきつと耐えられないでしょう。

毎年、米軍のヘリなどが起こす事故が、10〜50件ほど起きています。

1959年には、宮森小学校にジェット機が墜落し、炎上しました。18名が亡くなり、210名が重傷を負いました。

2004年には、沖縄国際大学に米軍のヘリが墜落しました。幸い当時、大学は夏休み中で、学生や教授などがあまりいなかったため住民の死傷はありませんでした。

この事故は沖縄が日本に復帰した後に起こりましたが、事故の調査などは米軍が行いました。また、米軍は、日本の警察、マスコミ、事件の関係者までも、現場に入らせませんでした。

沖縄国際大学は、道路1本を境にして、普天間基地と隣り合っています。普天間基地の周りには、住宅地が広がり、沖縄国際大学以外にも16の学校があります。ある小学校では、米軍の軍機が墜落したことを想定する訓練が行われています。だから普天間基地は「世界一危険な飛行場」と呼ばれるのです。

## 沖縄の米軍基地



●米軍基地  
沖縄県知事公室の資料による